

税理士のひとりごと

新年明けましておめでとうございます。税理士の佐藤です。

昨年末、カタールで開催されたワールドカップ 2022 で日本は強豪ドイツに勝利し注目を集めました。また、試合後、スタジアムでの日本人サポーターによるゴミ拾いが世界の話題になったのは皆さんご存知だと思います。



しかし、人の考えは十人十色です。大王製紙元会長の井川意高氏は「こういうの気持ち

悪いからやめて欲しい」「ゴミ拾い褒められて喜ぶ奴隷根性」と発言し波紋を呼びました。この人物、創業家出身で東大法学部を卒業、42歳の若さで年商6,000億(従業員12,000名)企業の6代目社長に就任されました。しかし、複数の子会社から100億円を超える金銭を不正に引き出し、カジノの賭け金に充て逮捕され、一躍時の人になった方です。社員さんにとっては遅かれ早かれ・・・この方に社長を辞めて頂いて安堵されている事でしょう・・・。

「善い人であれ？」

冒頭で紹介したように、人の考えは十人十色です。群馬に「ゴミ拾い仙人」と自称する経営者がいます。一代で年商47億(利益4億円)もの企業を作り上げたという新聞記事に興味をもって凶書を購入しました。タイトルは「ゴミ拾いをすると、人生に魔法がかかるかも♪(吉川充秀、あさ出版)」です。

本の「はじめに」で「社長たる者、従業員の前では、ニコニコ笑顔、辛いときも、辛い表情を見せずに、カラ元気を出していなさい」と良く言われる・・・しかし、「なにがあっても怒らない心の広いすごい人格者を私は拝見した事がない」と著者は言います。

経営者は自分に厳しいマイルールを課し、我慢を強いて、感情をおさえつけるため不機嫌になりやすいようで、だからこそゴミ拾いをすべきと言います(・・・効能はあとで紹介)。



「土地がら」

著者は北海道から、沖縄の宮古島まで愛用のゴミ拾いのトングを持ち趣味(ゴミ拾い)に没頭します。ある時、奈良駅から降りてゴミ拾いをはじめると・・・歩いても、歩いてもゴミが落ちていません。500メートルほど歩いてやっと吸殻を一つを見つけたようです。どうやら、この地域では信仰心をもった人が自発的にゴミ拾いをされているようです・・・



一方、新大阪駅は2秒に一個の割合でゴミ拾いをしなければ間に合わず、おおよそ徒歩8分ほどの距離なのにゴミ拾いに忙しくて1時間半かかるゴミの聖地だったそうです。

また、どこの街でも独身者や外国人の居住地域は彼にとってやりがいのある場所のようです。ゴミを捨てるという行為の善悪に気が付かないのか、道徳意識が欠落しているのか・・・。

「ゴミ拾いは誰のため？」

私は「私のためにゴミ拾いをしている」、ゴミ拾いをしていると、大切なアイデアが閃いたり、鼻歌がでたり、無になれる。自分との対話、自分の本心との対話をする格好の時間となり、自己肯定感が高まり、結果として自分軸を取り戻し「上機嫌」になる。しかも、運動になるので一石二鳥どころか十鳥以上の価値があると彼は自己分析しています。

ストレスを抱え、仏頂面な経営者より上機嫌の経営者の方が従業員にとって好ましいのは間違いないでしょう。また、従業員は社長の言っている事とやっていることを目にして心の中でいつも本音を探っています。従業員から「信頼を得る一つの方法として、実はゴミ拾いは有効な手段でもある」と筆者は語ります。

「心が穏やかになる」

筆者は24歳から競争社会の中、「たたき上げ」の精神で経営をしてきたと語ります。社長は色々な経営課題を、損得や善悪、経営理念などを基準に判断する決定業で、その結果、一定のルールにのっとった「結論ファースト」で物事を考える傾向があります。

一方、ゴミ拾いでは歩く道々にゴミが現れて来る。それを一つ一つ「これは拾う、これは拾わない」というジャッジは基本的にしません。実は、ゴミ拾いを続けることは、先入観を排して物事を考える習慣が身につく一つの方法なのかも知れません。

筆者のように、ゴミ拾いだけではなく他の事(趣味)であっても「心が無になる」時間を作りだせれば、不機嫌で頑固頭の経営者になる事がある程度防げるかも知れません(笑)。

筆者は、経営者は「地球環境問題や社会問題を解決する」事より自分問題(感情のコントロール)を優先的に解決すべしと言います。もしかすると・・・従業員にとっては最大の関心事なのかも知れません。

「運氣・・・」

筆者は会社発展のため、様々な研究や努力をしたようです。そこで、いわゆる成功の要因のひとつに「運」があるとの答えを導き出しました。これは、当然の話で新規出店の際に「運氣が悪い(失敗する確率の高い)場所」を選ぶ経営者はいません。



筆者によると、風水学ではゴミが集まるような所は、エネルギーや水の通りが悪い「運気の悪い場所」と言われるそうです。つまり、会社の周りにゴミがたくさん落ちているという事は自社の運氣が下がる事を放置している事を意味します。

風水を信じる、信じないかは・・・さて置いて、小さな気付き(問題(課題))に目につくか、つかないかが競争社会の中で大きな差になるという事は間違いなさそうです・・・。

今月のことば

足元の紙くず一つ拾えない人間に何ができよう？

(森信三：教育者、哲学者)

編集後記:

私事ですが、一昨年までは除雪が趣味と公言していました。本書を読んでなるほど・・・と感じたのは、自宅や職場の前に雪が無く、整然としていると気分や心が落ち着き、除雪中は無心にもなれます。しかし、昨年の大雪で無理(強迫観念)を強いられた結果、除雪は苦手になりました・・・(寿)。